LS-35 DVDホームエンターテインメント・システム

取扱説明書 操作ガイド

BOSE®

※説明の便宜上、イラストは原型と異なる場合があります。

安全上の留意項目

ご使用前に、この「安全上の留意項目」をよくお読みになり、正しくお使いください。

絵表示について

この「安全上の留意項目」は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するため、いろいろな絵表示をしています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

警告 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示します。

注意 この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が損傷を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示します。

⃠記号は禁止の行為であることを告げるものです。
図の中や近傍に具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。

●記号は行為を強制したり指示したりする内容を告げるものです。
図の中に具体的な指示内容（左図の場合は電源プラグをコンセントから抜け）が描かれています。

△記号は注意を促す内容を告げるものです。
（左図の場合は指をはさまれないように注意）が描かれています。

区分	絵表示	内容
警告	電源プラグをコンセントから抜け	●万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用すると、火災、感電の原因となります。すぐに機器本体の電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。煙が出なくなるのを確認して販売店に修理をご依頼ください。 ●万一、内部に水などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。 ●万一、内部に異物などが入った場合は、まず機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
		●電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
	水場での使用禁止	●風呂場では使用しないでください。火災・感電の原因となります。
		●乾電池は、充電しないでください。電池の破損、液もれにより、火災・感電の原因となります。
	使用禁止	●雷が鳴りだしたら、アンテナ線や電源プラグには触れないでください。感電の原因となります。
		●表示された電源電圧（交流100ボルト）以外の電圧で使用しないでください。火災・感電の原因となります。 ●この機器を使用できるのは日本国内のみです。船舶などの直流（DC）電源には接続しないでください。火災の原因となります。 ●この機器に水が入ったり、ぬらさないようにご注意ください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。
		●万一、この機器を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

警告

通風孔のある機器のみ
●この機器の通風孔をふさがないでください。通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となります。この機器には、内部の温度上昇を防ぐため、ケースの上部や底部などに通風孔があけてあります。次のような使い方はしないでください。
この機器をあお向けや横倒し、逆さまにする。この機器を押し入れ、専用のラック以外の本箱など風通しの悪いところに押し込む。
テーブルクロスをかけたり、じゅうたん、布団の上において使用する。

●この機器を設置する場合は、壁から10cm以上の間隔をおいてください。また、放熱をよくするために、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、機器の天面から2cm以上、背面から5cm以上のすきまをあけてください。内部に熱がこもり火災の原因となります。

●電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷にならないようにしてください。コードに傷がついて火災・感電の原因となります。
●この機器の通風孔、ディスク挿入口などから内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。
●この機器の上に花びん、植木鉢、コップ、化粧品、薬品や水などの入った容器や小さな金属物を置かないでください。こぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。
●この機器の上に、ろうそく等の炎が発生しているものを置かないでください。火災の原因となります。

分解禁止
●この機器の裏ぶた、キャビネット、カバーは絶対外さないでください。内部には電圧の高い部分があり、感電の原因となります。内部の点検・整備・修理は販売店にご依頼ください。
●この機器は改造しないでください。火災・感電の原因となります。

●電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったりしないでください。コードが破損して、火災・感電の原因となります。
ACアウトレット（電源コンセント）付き機器のみ
●この機器のACアウトレットが供給できる電力は背面パネルに表示されております。接続する装置の消費電力の合計が表示されているW（容量）を超えないようにしてください。火災の原因となります。電熱器具、ヘアドライヤー、電磁調理器などは接続しないでください。また、供給電力以内であっても、電源を入れたときに大電流の流れる機器などは、接続しないでください。

注意

●調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。
●ぐらついた台の上や傾いた所など不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。
●電源コード、スピーカーケーブルを熱器具に近づけないでください。コードの被ふくが溶けて、火災・感電の原因となることがあります。
●窓を閉めきった自動車の中や直射日光が当たる場所など異常に温度が高くなる場所に放置しないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与え、火災・感電の原因となることがあります。
●湿気やほこりの多い場所に置かないでください。火災・感電の原因となることがあります。

●電源を入れる前には音量（ボリューム）を最小にしてください。突然大きな音がでて聴力障害などの原因となることがあります。
電池を使用する機器のみ
●電池を機器内に挿入する場合、極性表示プラス⊕とマイナス⊖の向きに注意し、表示通りにいれてください。間違えると電池の破裂、液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

●万一の事故防止のため、この機器を電源コンセントの近くに置き、すぐに電源コンセントからプラグを抜けるようにしてください。

●旅行などで長期間、この機器をご使用にならないときは安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。
●お手入れの際は安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。
●万一の事故防止のため、この機器を電源コンセントの近くに置き、すぐに電源コンセントからプラグを抜けるようにしてご使用ください。

●5年に一度くらいは機器内部の掃除を販売店などにご相談ください。機器の内部にほこりがたまったまま、長時間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行うと、より効果的です。なお、掃除費用については販売店にご相談ください。

●アンテナ工事には、技術と経験が必要ですので、販売店にご相談ください。
※送配電線から離れた場所に設置してください。アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。

●濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となることがあります。
●電源プラグを抜くときは、電源コードを引っ張らないでください。コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ずプラグを持って抜いてください。

●移動させる場合は、電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、アンテナ線、機器間の接続ケーブルなど外部の接続ケーブルを外してから行ってください。ケーブルが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。

●お子様がディスク挿入口に、手を入れないようにご注意ください。けがの原因となることがあります。

Safety Information

警告		
	⃠	●スピーカーケーブルの上に重いものをのせたり、ケーブルが製品の下敷きにならないようにしてください。また、壁や棚などの間にはさみ込んだりしないでください。スピーカーケーブルを傷つけて火災の原因となります。
	⚠	●スピーカー内部に金属片や異物などを落とさないでください。ショートや発熱などを起こし、火災の原因となります。
	❗	●スピーカーケーブルを熱器具や白熱灯の近く、直射日光のあたるところには近づけないでください。ケーブルの被覆が溶けて、火災の原因となります。
	⃠	●スピーカーケーブルを人が通るところなど引っ掛かりやすい場所に這わせないでください。つまずいて転倒したり、スピーカーが落下し、けがや事故の原因となります。
	⃠	●<本製品>を分解したり改造しないでください。破損や火災の原因となります。
	❗	●熱器具や白熱灯の近く、直射日光のあたるところには設置しないでください。そのような場所で使用しますと、火災の原因となります。

注意		
	⃠	●ぐらついた台の上や傾いたところなど不安定な場所は避けて置いてください。また、設置場所の強度は重みに耐えられるものにしてください。落下して、けがや事故の原因となります。
	❗	●スピーカーを高いところに設置される場合には、作業が不安定になりますので作業には十分ご注意ください。けがや事故の原因となります。
	⃠	●定格を超える入力を入れた状態や長時間音が歪んだ状態で使用しないでください。スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。
	⃠	●高いところに設置される場合には、不意な衝撃に対して落下しないよう固定してください。固定しないまま使用しますと、落下し、けがや事故の原因となります。
	⃠	●取付金具をご使用になる場合は、ご使用になるスピーカーに対応しているボーズ社製の金具をご使用ください。他メーカーの金具や、対応外の金具を使用するとスピーカーの破損や落下のおそれがあります。

コピーコントロール CD や DVD ディスクの一部には本システムでの再生ができないものがあります。

そのようなディスクを再生して機械が反応しなくなったり、ディスクが取り出せなくなった場合は、下記の取出方法を試してください。

取出方法 ・・・注意参照

1. 電源ケーブルをコンセントから抜きます。
2. 1分以上経ってから再び電源ケーブルをコンセントに差し込みます。
3. 通常通り Open/Close ボタンを押すとディスクを取り出すことができます。

注意

取出方法を行ってもディスクが取り出せない場合は、無理やりディスクトレーをこじ開けようとしたり本体を開けないでください。 本体やディスクトレーにキズが付くばかりでなく、内部の CD や、DVD にもキズが付き、そのディスクを再生することができなくなる場合があります。
取出方法を試してみてもディスクが取り出せない場合は無理をせず、**ボーズ株式会社 インフォメーションセンター**までお電話ください。

ボーズ株式会社
インフォメーションセンター
☎ 03-5489-0955

Contents

Introduction

ご使用の前に

モデルLS-35 DVDホームエンターテインメント・システムは、ジュエルキューブと、モノラルやステレオ録音ソースでも5.1チャンネルで再生できるBDデコーダー、ご使用になる場所を最適なリスニング環境に調整する自動音場補正機能「アダプトIQ」、高能率に重低音を再生するウェーブガイド構造のベースモジュールなどのボーズ独自のテクノロジーを結集した完結型DVDホームシアターシステムです。

LS-35の内容

・FM/AMチューナー、DVD/CDプレーヤー搭載のデザインも性能も新しくなったメディアセンター
・小型で置き場所を取らないジュエルキューブスピーカー
・性能、デザイン共に優れたベースモジュール
・使いやすい赤外線リモート・コントローラー
・外部の機器(ビデオデッキ、衛星チューナー、CDチェンジャーあるいはテープデッキ等)を接続するための豊富な入出力端子

再生できるディスクについて

LS-35のDVD/CDプレーヤーは、以下のタイプのディスクを再生できます。

名称	DVD ビデオ	音楽CD	ビデオ CD	CD-R または CD-RW	MP3 CD
ロゴ マーク	DVD VIDEO / DVD VIDEO	COMPACT disc DIGITAL AUDIO	VIDEO CD	マークなし	マークなし

地域番号を確認してください

DVDプレーヤーとDVDディスクの地域番号（リージョンコード）が合っていなければ使用できません。地域番号はそれらの機器、DVDディスクが使用される国または地域ごとに割り当てられています。本機の場合はメディアセンターの底面にリージョンコードが記載されています。DVDディスクはジャケットやケースなどに記載されています。日本で視聴できるディスクには次のような記号があります。
また、業務用ディスクの中には、本機での再生が禁止されているものがあります。

2　1 2 4　ALL　など

地域番号	おおよその該当地域
1	アメリカ、カナダ
2	日本、ヨーロッパ(東欧の一部を含む)、中近東
3	東アジア、東南アジア
4	オーストラリア、ニュージーランド、中南米
5	東欧、アフリカ(南アフリカ共和国、エジプトを除く)、インド
6	中国(香港を除く)
ALL	全地域

この取扱説明書の使い方

この取扱説明書では、主に、リモコンとメディアセンターのボタンの説明と、テレビ画面のメニュー内容、メディアセンターのディスプレイに表示されるステータスインジケーターの内容について説明していきます。

表記上の区別のしかた

ボタン名…ボタンの名称は**太字**で書いてあります。ボタンに記号や文字がついている場合は、ボタンのイラストだけで書かれている場合もあります。

オンスクリーンディスプレイメッセージ（上下にラインあり）…画面上メッセージは、**太文字で、さらに上下にラインを付けて**表記しています。

メディアセンターディスプレイ（ステータスインジケーター）の内容…表示される文字や記号は**太字の英大文字**で記載しています。

この取扱説明書で使用されている用語の説明

コンポーネント映像信号…映像信号を輝度信号（Y）、色差信号Pr（R-Y）、色差信号Pb(B-Y)の3つに分けて送るため、Sビデオ信号よりさらに質の高い映像が得られる。

コンポジット映像信号…輝度、色および同期情報を含んでいる、一本のビデオ信号。NTSCとPALはコンポジットビデオ信号の種類。

DD D、DD DOLBY DIGITAL…ドルビー研究所によって開発された音声圧縮技術のドルビーデジタルの登録商標ロゴマーク。ドルビーデジタル方式の音声圧縮はDVDビデオでは最も一般的な音声圧縮方法。

dts…DVDディスクで採用されているマルチチャンネルサラウンド音声の圧縮方式の一つ。

DVD…12cmおよび8cmの光ディスクを使用した映画、音楽、コンピューターなど様々な用途に応用される大容量光ディスクの規格。デジタル・ビデオ・ディスクまたはデジタル・バーサタイル・ディスクの頭文字。

DVDビデオ…読み出し専用DVDにビデオ（動画や音声）を収録する規格のこと。画像にMPEG-2、音声にDolby AC-3の圧縮方式を用いて、片面1層のディスクに2時間程度の映画を1本収録できる。音声は、リニアPCM、MPEGオーディオ、DTS等がある。ユーザーが好みのカメラアングルを選択再生できるマルチアングル機能や、最大8ストリームの音声、最大32カ国語の字幕スーパーを選択再生できるマルチランゲージ機能など、多くの機能を持っている。

IR…赤外線（infrared)の頭文字。リモコンの信号をやりとりする方式のうちの一つ。

レターボックス…標準（4:3）の画面に16:9の映画などの左右を画面いっぱいに映して上下に余白を入れる表示モード。このモードでは縦横比が正しく、全ての映像が表示されることになるが、上下に黒い帯が入り、表示面積が小さくなってしまう。

MP3…MPEG Audio Layer 3を略したもの。MPEGオーディオの1方式。MPEGオーディオは音声情報を圧縮するための規格で、音声ファイルを圧縮するやり方の違いによって、レイヤー1(Layer 1)からレイヤー3までの3通りが規定されている。

・Layer1：圧縮率1/4(ステレオ)
・Layer2：圧縮率1/6～1/8(ステレオ)

・Layer3：圧縮率1/10～1/12(ステレオ)
したがって、一番圧縮率の高いMP3方式では、1枚のCDに通常の約10倍の曲を収録できる。

NTSC…テレビジョン放送方式のうちの一つ。アメリカのテレビジョンシステム委員会がきめた標準方式のことで、アメリカをはじめ日本やカナダ、メキシコで、この方式を採用している。白黒放送を継承し走査線数525本、フィールド数毎秒60枚（フィールド2枚で1フレーム＝画面）。National Television System Committee（全国テレビジョンシステム委員会）の頭文字。

PAL…テレビジョン放送方式のうちの一つ。Phase Alternation by Lineの頭文字。PAL方式は、ドイツ、イギリスなどヨーロッパと、アジア・アフリカ諸国の大部分、それに中国で採用されている。走査線数625本、フィールド数毎秒50枚。

パン・スキャン…ワイド画面の両端がカットされた画像。

PCM…アナログ信号を圧縮せずに、デジタルでコード化された信号。これはCDおよびレーザーディスクに使用されたデジタルオーディオ信号の形式。

Sビデオ…2回路分の4ピンのミニDINを使用し、輝度信号と色信号の2つに分けて伝送する規格。輝度信号と色信号を別にしているため、コンポジットに比べると画質がよい。現在では、ほとんどのテレビはSビデオ入力端子を装備している。

VCD…Video CD（Video Compact Disc）【ビデオ・シー・ディー】映像と音声データを、VideoCD規格に準拠してCD上に記録したもの。圧縮方式はMPEG-1形式で、標準的な650MBのCDに約70分の映像を記録できる。画質はVHSビデオ程度。

ボーズデジタル…モノラルやステレオ録音でも、デジタル5.1チャンネルで楽しめるボーズ独自の技術。

YPbPr…コンポーネントビデオ信号のこと。

アスペクト(縦横)比…テレビ画面の横（幅）と縦（高さ）の比率。標準のテレビ画面は4:3でワイドテレビの画面が16:9である。

チャプター…DVDでの正式な用語ではpart of title(パートオブタイトル：PTT)と呼ぶ。チャプターが入っているディスクでは、見たいシーンのサーチができる。

MPEG…ディスクに音声や映像を記録するためのデータ圧縮方式の一つ。

タイトル…ビデオクリップの集合。チャプターが集まったものがタイトルで、タイトルが集まったものが一枚のディスク。ただし、一つのチャプターで構成されるタイトルもあれば、一つのタイトルで構成されるディスクもある。

トラック…オーディオ・テープやディスクに記録された選択できる個々のデータの単位。CDでは曲（1トラック目=1曲目）ともいう。

LS-35の使い方

リモコンの**On/Off**ボタンを押すとメディアセンターの電源が入ります。このボタンはメディアセンターの**On/Off**ボタンと同様の機能です。

♪ **注意：外部の機器の電源を入れるためには、それぞれの機器のリモコンや電源スイッチを使用してください。メディアセンターのリモコンでビデオデッキやテレビなどの電源を入れることはできません。**

リモコン

リモコンのボタンは機能によってグループに分かれています。また、リモコンのいくつかのボタンはメディアセンターのボタンと同様な機能を持っています。

電源On/Offとミュート（一時的消音）

メディアセンターの電源をON/OFFします。

ミュート（一時的消音）のON/OFFを行います。

ソース（音源）の選択

内蔵CD/DVDプレーヤーを選択します。このボタンでメディアセンターの電源をONできます。ミュートが働いている場合はミュートを解除します。

音源としてテレビを選択します。このボタンでメディアセンターの電源をONできます。ミュートが働いている場合はミュートを解除します。

音源としてビデオデッキを選択します。このボタンでメディアセンターの電源をONできます。ミュートが働いている場合はミュートを解除します。

音源としてAUXを選択します。このボタンでメディアセンターの電源をONできます。ミュートが働いている場合はミュートを解除します。

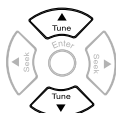
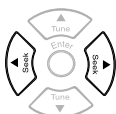
音源としてカセットテープもしくはMDを選択します。このボタンでメディアセンターの電源をONできます。ミュートが働いている場合はミュートを解除します。

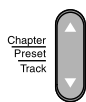
FMまたはAMの放送局を選択します。このボタンでメディアセンターの電源を入れて、最後に聞いていたFMまたはAMの放送局を選択します。またこのボタンを押す度にFMとAMが切り換わります。ミュートが働いている場合はミュートを解除します。

Controls and Indicators

ソース（音源）とメニューの選択

再生するDVDソフトにメニューがある場合、DVDのメニュー画面を表示させるときに使用します。

LS-35のオンスクリーンディスプレイ画面を表示したり、消したりするときに使用します。

チューナー時、FM/AMラジオの周波数を上げ/下げするボタンです。
オンスクリーンディスプレイを表示しているときは上下の項目を選択するときに使います。

チューナー時、周波数を上下してシークチューニング（電波の強い放送局を受信して停止）するときに使用します。
オンスクリーンディスプレイを表示しているときは選んだ項目の内容を変更するときに使います。

他のボタンと一緒に使用して、サブメニューに入ったり、選択した設定を決定するときに使います。

DVDではチャプターを、ラジオではプリセットステーション（あらかじめ記憶してある放送局）番号を、CDではトラック番号を進めたり、戻したりするときに使用します。

ボリュームを0から100まで上げたり下げたりするときに使用します。＋を押すと音量が上がります。ミュートが働いているときはこのボタンで解除します。－を押すと音量が下がります。ミュートが働いているときはミュートが働いたまましシステムの音量を下げます。

数字ボタンは、直接DVDチャプター、CDトラックあるいはラジオのプリセット番号を呼び出すときに使用します。一桁の番号を入力するときは数字の前に0を入力すると素早く反応します。

再生モードの選択

Stop

DVD以外ではディスクの再生を停止します。DVDの場合は、このボタンを押すとリジューム（続き再生メモリー）状態で停止します。もう一度押すと完全に停止します（16ページ参照）。

Pause

このボタンを押すと再生をポーズ（一時停止）します。

Play

このボタンを押すと再生を始めます。

再生中のディスクを早戻し、早送りするときに使用します。

Shuffle Repeat

CD再生時に、このボタンを押す度に、次のように順不同（Shuffle）/繰り返し（Repeat）モードが換わります。

SHUFFLE: DISC …ディスクの曲を順不同（Shuffle）に再生します。全曲再生すると停止します。

↓

SHUFFLE REPEAT: DISC …ディスクの曲を順不同（Shuffle）に再生を繰り返し（Repeat）ます。

↓

REPEAT: DISC …ディスク全体を繰り返し（Repeat）再生します。

↓

REPEAT: TRACK …1曲を繰り返し（Repeat）再生します。

↓

REPEAT: OFF …通常の再生に戻ります。

↓

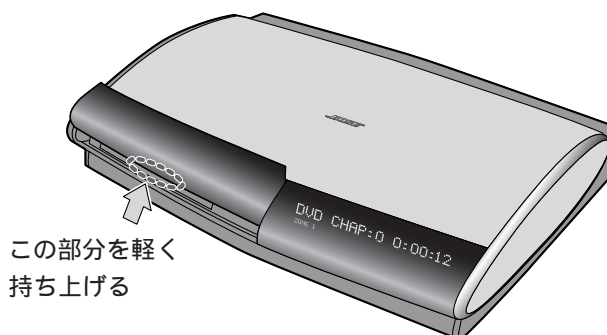
（以後、ボタンを押す度に繰り返す）

スピーカーモードの切換

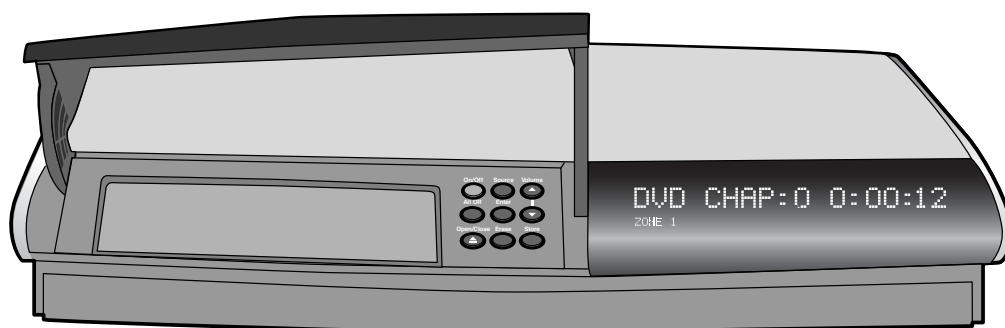
Speakers 2-3-5

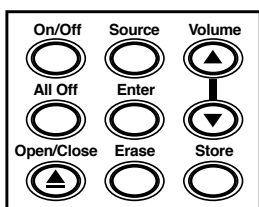
スピーカーモードを変更します。ボタンを押す度に、2スピーカー→3スピーカー→5スピーカー→（以後、ボタンを押す度に繰り返す）に切り換わります。

フロントカバーの開け方

図1
フロントカバーの開け方

メディアセンター

メディアセンターはフロントカバーの下にコントロール（操作）パネルとDVD/CD用ディスクトレーがあります。また、右側にシステムの現在の状態を示すステータスインジケーターがあります。

図2
メディアセンター前面

コントロール（操作）パネルについて

コントロール（操作）パネルには9個のボタンがありますが、メディアセンターのすべての機能を使用するためにはリモコンの使用が必要になります。

On/Off　メディアセンターの電源をOn/Offします。

All Off　メディアセンターの電源をOffします。

Open/Close　ディスクトレーを開閉するときに押します。ディスクの再生中にこのボタンを押すと、再生を停止してディスクトレーが開きます。

Source　ソース（音源）の切り換えを行います。

Enter　ラジオのプリセットメモリーを決定するときに使用します（19ページ参照）。

Erase　ラジオのプリセットメモリーを消去するとき（20ページ参照）、または「アダプトIQ（ADAPTiQ）」システムによる音場補正を解除するとき（31ページ参照）に使用します。

Volume　ボリュームを上げ下げするときに使用します。▲を押すと音量が上がります。ミュートが働いているときは、このボタンで解除します。▼を押すと音量が下がります。ミュートが働いているときは、ミュートが働いたままシステムの音量を下げます。

Store　ラジオのプリセットメモリーで使用します（19ページ参照）。

図3

表示部のすべての内容

ディスプレイ表示について

電源をOnにすると、ディスプレイのステータスインジケーターは現在の状態を表示します。下の図の表示がすべて点灯するわけではありません。動作しているモードや、状況に応じて必要なものが点灯するようになっています。

SLEEP	就寝タイマーがセットされているときに点灯します。
STEREO	FM放送がステレオで受信されているときに点灯します。
SETTINGS	オンスクリーンディスプレイ画面が表示されているときに点灯します。
SHUFFLE **REPEAT**	DVD/CDモードで、シャッフルまたはリピート演奏時に点灯します。
●	リモコンの操作を受信する度、点滅します。
ZONE-1	本システムは背面の'SPEAKER ZONES'の'1'出力端子とベースモジュールを専用ケーブルで接続して使用します。'SPEAKER ZONES'の'1'出力端子が使用できる状態のときに点灯します。

システムの電源のOn/Off

メディアセンターのコントロールパネル上の**On/Off** または、リモコンの**On/Off** ボタンでシステムの電源をオン/オフできます。**On/Off** または**On/Off** ボタンで電源を入れた場合、前回電源を切ったときのソース（音源）が自動的に選択されます。また、リモコンのソース選択のボタンで電源を入れた場合は電源が入ると同時にそのソースに切り換わります。

音の調節

ボリュームについて

メディアセンターの**Volume** または、リモコンの**Volume** ボタンを使用して音量の上げ下げをします。

スピーカーモードについて

選択するソース（音源）によって、自動的にスピーカーモードが切り換わります。例えばラジオのFMを選択した場合は2スピーカーモードになり、DVDを選択した場合は5スピーカーモードになります。また、ご自身でリモコンの**Speakers 2-3-5**ボタンを押すことによりスピーカーモードを変更させることもできます。

センタースピーカーの音量調節について

センタースピーカーの音量は、オンスクリーンディスプレイの中の“ 音声設定 ”画面で変更することができます。設定の変更のしかたは、“ 音声設定 ”（30〜31ページ）を参照してください。

サラウンドスピーカーの音量調節について

サラウンド（リア）スピーカーの音量は、オンスクリーンディスプレイの中の“ 音声設定 ”画面で変更することができます。設定の変更のしかたは、“ 音声設定 ”（30〜31ページ）を参照してください。

ヘッドホンの使い方について

市販のヘッドホンで音楽を聴くには、メディアセンターの右側にあるステレオミニヘッドホンジャックを使用します。このジャックにヘッドホンプラグを差し込んでください。ヘッドホンを接続すると、自動的にスピーカーからの音が止まります。

⚠ **注意：ヘッドホンをご使用になるときは、音量を上げすぎないようにご注意ください。耳を刺激するような大音量で長時間続けて聴くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。**

システム設定

必要があれば、システム設定はオンスクリーンディスプレイの中の“ システム設定 ”画面で変更することができます。設定の変更のしかたは、“ システム設定 ”(32〜33ページ)を参照してください。

就寝タイマーの使い方

LS-35には、10〜90分までの設定時間が経過した後、自動的に電源が切れる就寝タイマーを内蔵しています。就寝タイマーの設定はそれぞれの再生モード時にリモコンの**Settings** ◯ ボタンを押してオンスクリーンディスプレイに就寝タイマーの項目を表示させて設定してください。

♪ **注意： 就寝タイマーで電源を切ることができるのは本システムのみです。システムに接続している他の外部の機器の電源を切ることはできません。**

コンポーネント接続をするには

コンポーネント接続をするには、付属のコンポーネントビデオアダプターケーブルを使用します。

♪ **注意： コンポーネント信号を出力するためには、メディアセンターの設定を変更する必要があります。変更はオンスクリーンディスプレイの中の“ システム設定 ”画面で行います。詳しくは、“ システム設定 ”(32〜33ページ)の項目を参照してください。**
付属のコンポーネントアダプターケーブルは、LS-35専用です。他の製品には使用できません。

外部の機器に録音するとき

1. 録音したい音源(FM/AM、CD/DVD、AUX)を選択します。
2. 外部の録音する機器(カセットデッキ、MDレコーダーなど)の準備をします。
3. 外部の機器の取扱説明書に従い、レベル等の調整を行ってから録音をスタートします。

Playing a Video DVD

はじめてDVDを再生する前に

はじめてDVDを再生する前に次のことを確認してください。

・付属のリモコンの使い方を覚えましたか？
・再生しようとするDVDソフトの地域番号（リージョンコード）が適切ですか？
（本機の地域番号は「2」です。「2」または「2」を含むものあるいは「ALL」と表示されたDVDビデオが再生できます。）
・テレビの映像入力切換は間違いなくメディアセンターからの入力を選択していますか？

DVDならではの機能を使用しようとしても、DVDソフトにその情報や機能が入っていない場合は使用することができません。例えば、カメラアングルを切り換えたくてもアングル情報がディスクに記録されていなければアングルを切り換えることはできません。また、サブタイトル（字幕など）を表示させようと思ってもその情報がディスクに記録されていなければ、本機のシステムで設定しても表示させることはできません。
DVDビデオの中には、ソフト制作者の意図により、本書の説明どおりに動作しないディスクがあります。ディスクのジャケットなどもご参照ください。

DVDディスクのセットと再生

1. テレビの電源とLS-35の電源を入れます。
2. リモコンの**CD/DVD** ボタンを押します。
3. メディアセンターのコントロールパネルの**Open/Close** ボタンを押してディスクトレーを出します。
4. ディスクトレーにDVDディスクをセットします。
5. メディアセンターのコントロールパネルの**Open/Close** ボタンを押してディスクトレーを収納します。
   自動的に再生が始まります。もし、始まらない場合はリモコンの**Play** ボタンを押してください。

DVD再生時の基本的な操作

一時的に停止させたい‥‥‥‥‥‥	リモコンの**Pause** ボタンを押します。
停止させたい‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥	リモコンの**Stop** ボタンを押します。
チャプターを移動させたい‥‥‥‥	リモコンの**Chapter** を押して前後のチャプターを選びます。
チャプターの繰り返し再生をしたい‥‥	リモコンの**Shuffle/Repeat** ボタンをチャプター再生中に押します。
早戻し、早送りしたい‥‥‥‥‥‥	リモコンの または ボタンを押し続けます。

♪ **注意：DVD再生中にSTOP ボタンを押したり、他のソースのボタンを押すと現在再生しているところを記憶したまま停止したり他のソースに切り換わります（リジューム（続き再生メモリー）ストップ）。ただし、外部の機器からデジタル入力がある場合はリジューム機能が働きません。**

システムがDVDモードの時、利用可能なオプションの設定をオンスクリーンディスプレイ画面で変更できます。オンスクリーンディスプレイはリモコンの**Settings** ボタンを押して画面に表示してください。そのとき、必ずテレビの電源を入れておいてください（“DVD設定オプション”（23～24ページ）参照）。その他の設定項目の内容については、“音声設定”（30～31ページ）と“システム設定”（32～34ページ）を参照してください。

視聴制限（パレンタルコントロール）について

視聴制限とは、国ごとの規制レベルに合わせて視聴年齢制限のレベルが設定されているディスクの再生を制限するというDVDの機能の一つです。制限の仕方はDVDによって異なり、ディスクによっては子供に見せたくないシーンをカットしたり、全く再生できないようにする、別の画面に差し換えるなどするものもあります。LS-35では子供がレベル設定を変えることのないように、暗証番号で設定を保護することができます。
通常各DVDにおける視聴許可レベルは全米映画協会(MPAA)によって設定された標準の映画観客指定に準拠しています。 これらの視聴許可レベルは1(どんなに小さい子供でも見せてよい)から8(成人向け)まであります。 視聴制限の使い方は34ページを参照してください。

視聴許可レベル	視聴（年齢）制限の およそのめやす	全米映画協会 映画観客指定
8	最も厳しい視聴制限	
7	17歳以下入場禁止	NC-17
6	17歳未満保護者同伴要	R
5	中学生以下保護者同意要	
4	13歳未満保護者同意要	PG-13
3	年少者保護者同意要	PG
2	ほぼ年齢制限なし	
1	一般（年齢制限なし）	G

※適切な視聴許可レベルは、実際に視聴制限のレベルが設定されているDVDソフトをお買い上げになられたときに、お客様自身で動作させて、ご確認ください。

視聴許可レベルの設定

再生するDVDソフトにレベル設定がされている必要があります。本機で視聴許可レベルを設定しても、DVDソフトにレベル設定がされていなければ、この機能は使用できません。

視聴許可レベルの意味

「一般（年齢制限なし）（レベル1）」とは、どんな小さな子供にも見せることができる内容であるという意味です。本機で視聴許可レベルを[1]にすると、レベル2〜8に設定してあるDVDソフトを視聴することができなくなるという意味です。

LS-35の レベル設定	視聴可能なソフトの視聴制限レベル
8 以下	8 7 6 5 4 3 2 1
7 以下	7 6 5 4 3 2 1
6 以下	6 5 4 3 2 1
5 以下	5 4 3 2 1
4 以下	4 3 2 1
3 以下	3 2 1
2 以下	2 1
1	1

Playing an Audio CD

CDのセットと再生

1. リモコンの**CD/DVD** ボタンを押します。
2. メディアセンターのコントロールパネルの**Open/Close** ボタンを押してディスクトレーを出します。
3. ディスクトレーにCDをセットします。
4. メディアセンターのコントロールパネルの**Open/Close** ボタンを押してディスクトレーを収納します。
   自動的に再生が始まります。もし、始まらない場合はリモコンの**Play** ボタンを押してください。

CD再生時の基本的な操作

一時的に停止させたい……………………	リモコンの**Pause** ボタンを押します。
一時停止を解除したい……………………	再びリモコンの**Pause** ボタンを押すか、リモコンの**Play** ボタンを押してください。
停止させたい…………………………	リモコンの**Stop** ボタンを押すか、メディアセンターの**Open/Close** ボタンを押します。
次のトラック(曲)へ移動したい…………	リモコンの**Chapter** **上**を押して次のトラックへ移動します。
再生中のトラック(曲)の頭の部分に戻りたい…	数秒間再生の後、リモコンの**Chapter** **下**を押すと、現在再生中のトラックの頭に戻ります。
一つ前のトラック(曲)へ戻りたい…………	数秒間再生の後、リモコンの**Chapter** **下**を2回押すと、現在の一つ前のトラックの頭に戻ります。
早戻し、早送りしたい……………………	リモコンの または ボタンを押し続けます。
曲を順不同(Shuffle)に再生したい………	CDをセットした後にリモコンの**Shuffle/Repeat** ボタンを押します。
順不同(Shuffle)再生を解除したい………	順不同再生モードのときにリモコンの**Shuffle/Repeat** ボタンを表示部に**REPEAT: OFF**の表示が出るまで押します。

システムがCDモードの時、利用可能なオプションの設定をオンスクリーンディスプレイ画面で変更できます。オンスクリーンディスプレイはリモコンの**Settings** ボタンを押して画面に表示してください。そのとき、必ずテレビの電源を入れておいてください(" CD設定のオプション "(26ページ)参照)。その他の設定項目の内容については、" 音声設定 "(30～31ページ)と" システム設定 "(32～34ページ)を参照してください。

ラジオ放送の聴き方

リモコンの**FM/AM** ボタンを押してラジオモードを選んでください。もし、システムの電源が切れていても、自動的に電源が入り、最後に聴いていた放送局を選んで電源が入ります。

選局のしかた

バンド(FMまたはAM)を変えたい	リモコンの**FM/AM** ボタンを押して希望のバンドを選んでください。
受信状況の良い放送局を自動で選びたい	選局をはじめるまでリモコンの**Seek** または ボタンを長く押してください。選局を始めたら指を離します。自動的に放送局を選局します。すぐに選局を止めたいときはリモコンの**Seek** または ボタンを一回だけ短く押してください。自動で選んだ後、すぐにまた自動選局をさせたい場合はリモコンの**Seek** または ボタンを一回だけ押してください。
手動で選局したい	リモコンの**Tune** ボタンを押して周波数をかえてください。
プリセットしてある放送局を呼び出したい	リモコンの**Preset** ボタンを押して希望のプリセット放送局を呼び出してください。あるいは、リモコンの数字ボタンを使って直接プリセットしてある放送局の番号を入力してください。

システムがFMあるいはAMモードのとき、そのバンドに関しての利用可能なオプションの設定をオンスクリーンディスプレイ画面で変更できます。オンスクリーンディスプレイは、リモコンの**Settings** ボタンを押して画面に表示してください。そのとき、必ずテレビの電源も入れておいてください(" FMモード時のオプション設定 "(27ページ)、" AMモード時のオプション設定 "(28ページ)参照)。 その他の設定項目の内容については" 音声設定 "(30〜31ページ)と" システム設定 "(32〜34ページ)を参照してください。

プリセットチューニングのために放送局を登録します

よく聞く放送局をすぐに呼び出せるようにあらかじめ記憶させておくことができます。
プリセットできる放送局はFM 、AMそれぞれ25局です。もし、それ以上登録しようとすると**ALL PRESETS FULL… …ERASE A PRESET** と表示されます。プリセットした放送局を変更したい場合には、まず変更したいプリセット番号に登録されている放送局を削除してから登録し直します。

放送局をプリセットするには (リモコンではできません)

1. リモコンで**Tune**、または**Seek**ボタンを押して登録したい放送局の周波数に合わせます。
2. メディアセンターの**Store** ボタンを押すと、メディアセンターのディスプレイにプリセット番号が表示されます。

・その番号でよければ、メディアセンターの**Enter** ボタンを押します。
・もし、他のプリセット番号に登録したい場合は、 ボタンを押して登録したいプリセット番号を選びメディアセンターの**Enter** ボタンを押します。

♪**注意：** **今すでに放送局がプリセットしてある番号に、新たに他の放送局を登録したい場合は、あらかじめその番号に割当てられた放送局を削除しておいてください。**

登録してある放送局の削除のしかた

1. リモコンで削除したい放送局を呼び出して、メディアセンターの**Erase** ボタンを押します。
2. メディアセンターのディスプレイに**ERASE PRESET〈登録されている番号〉?**と表示されたら、もう一度**Erase** ボタンを押すと削除されます。

プリセットチューニングのしかた

プリセットしてある放送局は、リモコンや、オンスクリーンディスプレイ画面で簡単に呼び出すことができます。

リモコンで呼び出す方法

・リモコンの数字ボタンを使って、聴きたい放送局を登録してあるプリセット番号を直接入力します。
・リモコンの**Preset** ボタンを押してプリセット番号を選びます。

オンスクリーンディスプレイ画面で選ぶ方法

1. リモコンの**FM/AM** ボタンを押してラジオモードに切り換えます。
2. リモコンの**Settings** ボタンを押します。このとき必ずテレビの電源を入れておいてください。
3. リモコンの**Tune** ボタンを押して、**プリセット**の項目を選びます。
4. リモコンの**Seek**またはボタンを使って聴きたい放送局のプリセット番号を選びます。

外部機器のソースを聞くとき

メディアセンターに接続されている外部の機器を使用するときは、外部の機器のリモコンや、フロントパネルにある電源スイッチを使用して外部の機器の電源を入れておいてください。

リモコンの**AUX** 、**TAPE** または**VCR** ボタンを押すと、LS-35の電源が入り、自動的にそのソースが選ばれます。 外部の機器にあらかじめテープやディスクをセットしておいてください。

音量はリモコンの**Volume** ボタンまたは、メディアセンターのコントロールパネル**Volume** のボタンを使って上げ下げします。

外部の機能を操作するためには、それぞれの機器のリモコンやパネルのスイッチを使用してください。それらの機器の詳細に関しては、それらの機器の取扱説明書をご覧ください。

内蔵あるいは、外部の機器のソース(FM/AM、CDあるいはAUX)を外部のテープデッキなどに録音するには、録音しようとしているソースが間違いなくスピーカーから再生されているかを確認してから録音を開始してください。

システムが各ソースのとき、そのソースに関しての利用可能なオプションの設定をオンスクリーンディスプレイ画面で変更できます。オンスクリーンディスプレイはリモコンの**Settings** ボタンを押して画面に表示してください。そのとき、必ずテレビの電源を入れておいてください(“外部の機器(TV/VCR/AUX/TAPE)設定のオプション”(29ページ)参照)。その他の設定項目の内容については、“音声設定”(30〜31ページ)と“システム設定”(32〜34ページ)を参照してください。

システム設定について

必要があれば、システム設定はオンスクリーンディスプレイの中の“ システム設定 ”画面で変更することができます。設定の変更のしかたは、“ システム設定 ”(32〜34ページ)を参照してください。

オンスクリーンディスプレイ

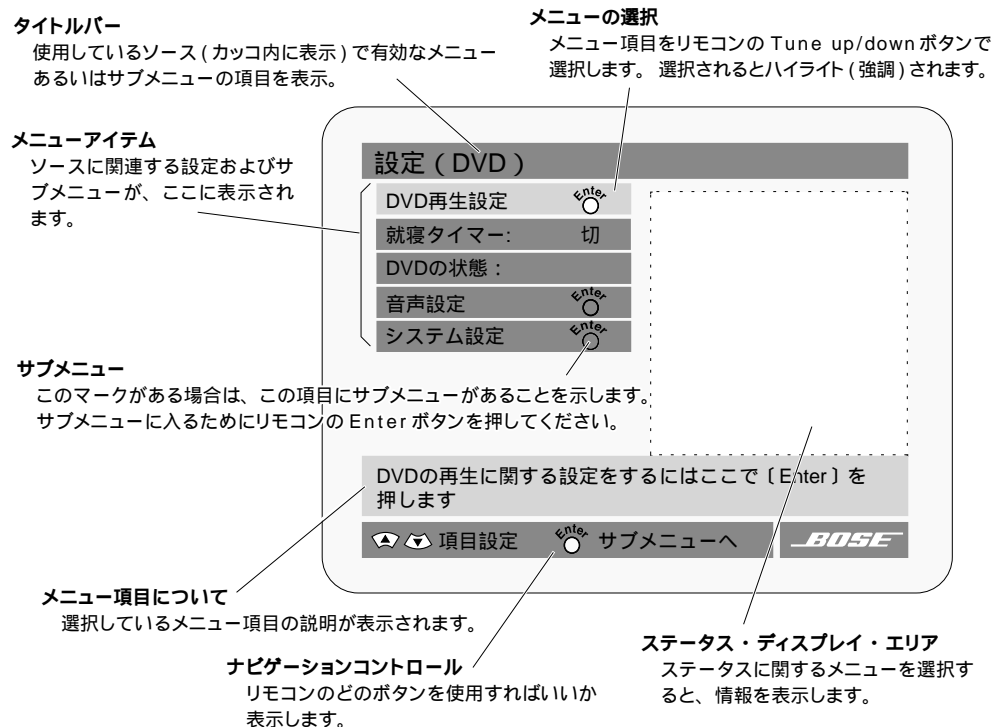
テレビの画面を使用して音声や映像に関するさまざまな設定を行えます。

オンスクリーンディスプレイを表示するには

リモコンの**Settings** ◯ ボタンを押してください。画面にオンスクリーンディスプレイが表示され、現在の再生モードと関係する項目が表示されます。例えば、DVDモードのときに**Settings** ◯ ボタンを押せば、図4のような画面になります。

オンスクリーンディスプレイをテレビ画面から消すには

リモコンの**Settings** ◯ ボタンをもう一度押してください。

図4
オンスクリーンディスプレイ

メニューの項目を選ぶには

リモコンの ▲ 、▼ 、◀ 、▶ ボタン(10ページ参照)を使って設定したい項目を選びます。

設定を変更するには

図5
設定を変更する

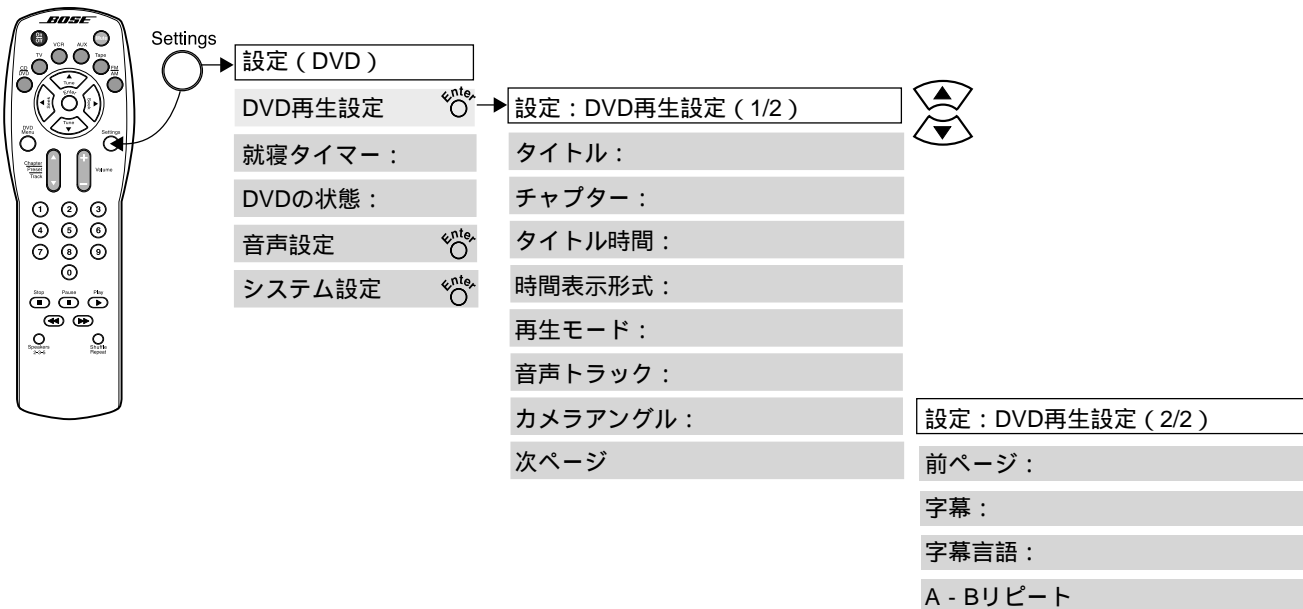
現在の設定と状況を確認するには

図6
DVDの情報の例

DVD設定

DVDの内容による動作の違いについて

DVDを再生中、オンスクリーンディスプレイ画面でメニュー項目を設定している最中のシステムの動作は、再生しているDVDによって、停止しているか、前の画面に戻ってしまうか、次の画面に移動してしまうかなど異なります。これは本システムの問題ではありません。

DVD設定/再生設定

下図のオプション項目は、DVDモード時にリモコンの**Settings** ボタンを押してオンスクリーンディスプレイを表示させてから設定を変更してください。
その他の設定項目の内容については“ 音声設定 ”(30〜31ページ)と“ システム設定 ”(32〜34ページ)を参照してください。

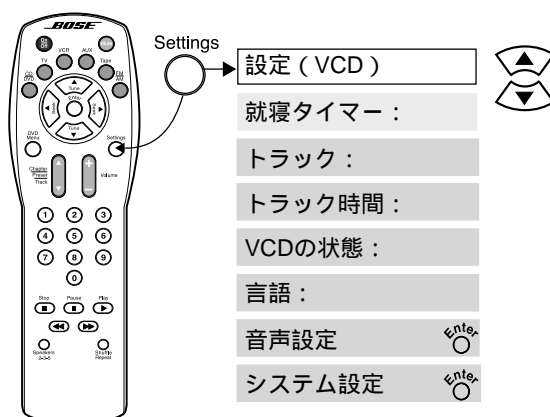
DVD設定オプション

項目：	設定（DVD）	内容
DVD再生設定：		リモコンのEnterボタンを押してDVDの再生に関する設定をします。“ DVD再生設定オプション ”(24ページ)参照。
就寝タイマー：	切	タイマーがセットされていません。
	分:秒	設定時間が(10:00から90:00まで10分単位で設定可能)経過した後に電源が切れます。“ 就寝タイマーの使い方 ”(15ページ)を参照。
DVDの状態：		DVDについての情報を表示します。
音声設定		“ 音声設定について ”(30〜31ページ)を参照。
システム設定		“ システム設定について ”(32〜34ページ)を参照。

Changing System Settings

DVD再生設定オプション

項目：	設定（DVD）	内容
タイトル：	ー/ー	リモコンのテンキーでタイトル番号を入力してタイトルを選べます。
チャプター：	ー/ー	リモコンのテンキーでチャプター番号を入力してチャプターが選べます。
タイトル時間：	時:分:秒	タイトルの頭からの時間を入力してシーンに移動できます。
時間表示形式：	経過時間 残り時間	経過時間をオンスクリーンディスプレイとメディアセンターのステータスインジケーターに表示します。 残り時間をオンスクリーンディスプレイとメディアセンターのステータスインジケーターに表示します。
再生モード：	早戻し(8×)/早戻し(4×)/早戻し(2×)/一時停止/通常再生/早送り(2×)/早送り(4×)/早送り(8×)	設定メニューを表示中に早戻し、早送り再生のスピードが選べます。
音声トラック：	英語 DD 5.1ch 日本語 DD D 2ch など	DVDに記録されている音声トラックを選べます。追加サウンドトラックには違う言語か代わりの音声のフォーマットが入っている場合があります。
カメラアングル：	ー/ー	マルチアングルで記録されている場所では好きなアングルが選べます。
次ページ		残りのメニューを表示します。
前ページ		始めのメニュー項目にもどります。
字幕：	入 切	画面の一番下に字幕を表示させます。 字幕を表示しません。
字幕言語：	英語/日本語/その他	字幕の言語を選びます。
A－Bリピート		範囲を指定して、繰り返し再生します。 • 繰り返し再生したい範囲の始点(A)で**Enter**ボタンを押します。 • 繰り返し再生したい範囲の終点(B)まで進めます。 • **Enter**ボタンを押します。 繰り返し再生をやめるには**Enter**、**Play**または**Stop**ボタンを押します。

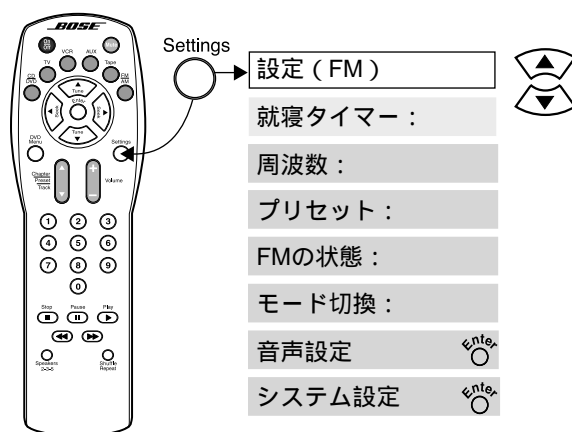
VCD（Video CD）設定

VCD（Video CD）設定オプション

項目：	設定（VCD）	内容
就寝タイマー：	切	タイマーがセットされていません。
	分:秒	設定時間が（10:00から90:00まで10分単位で設定可能）経過した後に電源が切れます。“就寝タイマーの使い方”（15ページ）を参照。
トラック：	1/ー	リモコンのテンキーでトラック番号を入力してVCDトラックを選べます。
トラック時間：	時:分:秒	VCDの頭からの時間を入力してその経過時間のところに移動できます。
VCDの状態		VCDについての情報を表示します。
言語：		VCDを再生する時のサウンドトラックの言語を選びます。
音声設定		“音声設定について”（30〜31ページ）を参照。
システム設定		“システム設定について”（32〜34ページ）を参照。

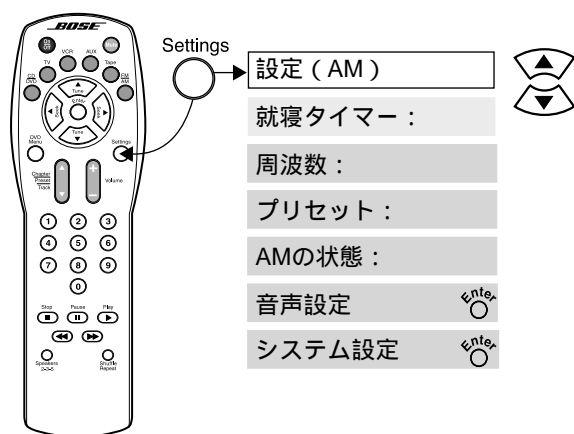
CD設定

CD設定オプション

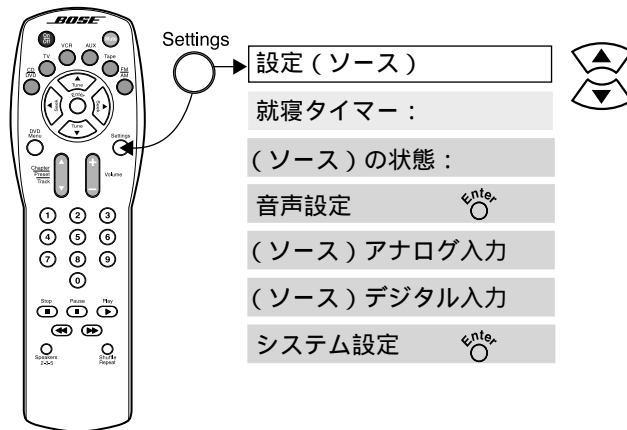
項目：	設定（CD）	内容
就寝タイマー：	切	タイマーがセットされていません。
	分:秒	設定時間が（10:00から90:00まで10分単位で設定可能）経過した後に電源が切れます。“就寝タイマーの使い方”（15ページ）を参照。
トラック：	1/―	リモコンのテンキーでトラック番号を入力してトラック（曲）が選べます。
トラック時間：	時:分:秒	CDの頭からの時間を入力してその経過時間のところに移動できます。
CDの状態		CDについての情報を表示します。
音声設定		“音声設定について”（30～31ページ）を参照。
システム設定		“システム設定について”（32～34ページ）を参照。

FM設定

FM放送受信時の設定オプション

項目：	設定（FM）	内容
就寝タイマー：	切	タイマーがセットされていません。
	分:秒	設定時間が（10:00から90:00まで10分単位で設定可能）経過した後に電源が切れます。“就寝タイマーの使い方”（15ページ）を参照。
周波数：	---- MHz	放送局の周波数に合わせます。
プリセット：	ー/25	プリセットさせた放送局を選びます。
FMの状態：		FMラジオの情報を表示します。
モード切換：	ステレオ	FM放送を常にステレオで演奏します（ただし、ステレオ放送の場合）。
	モノラル	FM放送を常にモノラルで演奏します。
	自動	FM放送のステレオ演奏とモノラル演奏を自動的に切り換えます。
音声設定		“音声設定について”（30〜31ページ）を参照。
システム設定		“システム設定について”（32〜34ページ）を参照。

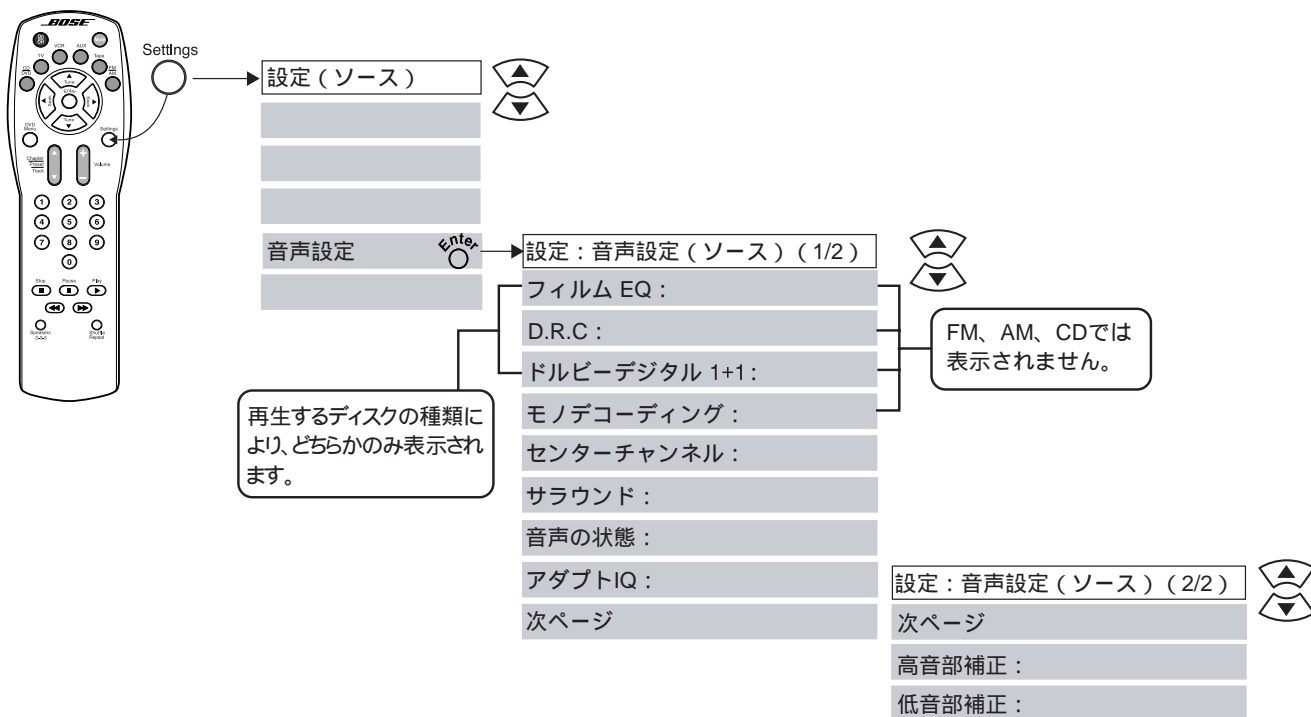
AM設定

AM放送受信時の設定オプション

項目：	設定（AM）	内容
就寝タイマー：	切	タイマーがセットされていません。
	分:秒	設定時間が（10:00から90:00まで10分単位で設定可能）経過した後に電源が切れます。“ 就寝タイマーの使い方 ”（15ページ）を参照。
周波数：	---- kHz	放送局の周波数に合わせます。
プリセット：	ー/25	プリセットさせた放送局を選びます。
AMの状態：		AMラジオの情報を表示します。
音声設定		“ 音声設定について ”（30～31ページ）を参照。
システム設定		“ システム設定について ”（32～34ページ）を参照。

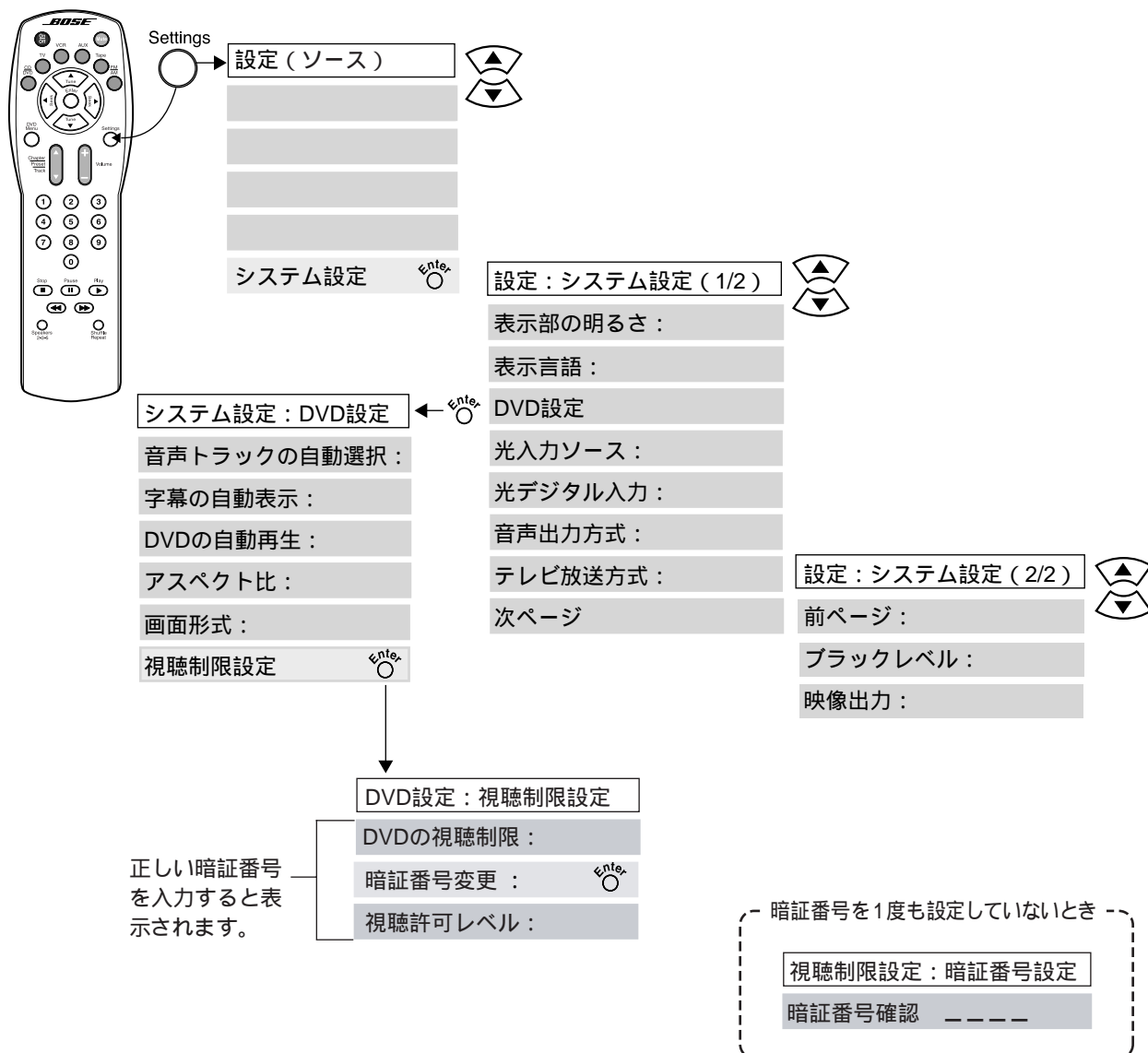
外部の機器（TV/VCR/AUX/TAPE）の設定

外部の機器からのソースを聞くときの設定変更

項目：	設定（TV/VCR/AUX/TAPE）	内容
就寝タイマー：	切	タイマーがセットされていません。
	分:秒	設定時間が（10:00から90:00まで10分単位で設定可能）経過した後に電源が切れます。“ 就寝タイマーの使い方 ”（15ページ）を参照。
（ソース）の状態：		現在のソース情報を表示します。
音声設定		“ 音声設定について ”（30〜31ページ）を参照。
（ソース）アナログ入力：	−6/−3/0/+3/+6	他のソースとのバランスがとれるように（ソース）のアナログ入力レベルを調節します。
（ソース）デジタル入力：	−6/−3/0/+3/+6	他のソースとのバランスがとれるように（ソース）のデジタル入力レベルを調節します。
システム設定		“ システム設定について ”（32〜34ページ）を参照。

音声設定

1. リモコンのSettings ボタンを押すと、現在選択しているソースにおいて利用可能な設定の項目がテレビ画面に表示されます。
2. リモコンのTune downボタンを押して、音声設定を選択してください。このとき項目が強調されて表示されます。
3. リモコンのEnter ボタンを押します。現在のソースのための音声設定項目が表示されます。

音声設定オプション

項目：	音声設定	内容
フィルムEQ：	入	映画用に音質バランスを最適化するときは［入］にします。
D.R.C.：	入 切	D.R.C.を［入］にすると小さい音量でも映画のセリフや会話が聞こえやすくなります。 D.R.C.が働きません。
ドルビーデジタル 1+1：	1/2/両方	ディスクに収録されている音声トラックを（トラック 1、トラック 2、両方）の中から選びます。
モノデコーディング：	入 切	モノラル信号をマルチチャンネル再生するときは［入］にします。 モノデコーディングが働きません。
センターチャンネル：	−8〜+8	センタースピーカーの音量を調節します。
サラウンド：	−10〜+6	サラウンドスピーカーの音量を調節します。
音声の状態		音声の状態を表示します。
アダプトIQ：	入 切 ——	アダプトIQにより音場が補正されています。 アダプト IQ による調整後の設定を工場出荷時の初期設定値に戻します。ただし初期設定値に戻すには、［切］を選択した後、5 秒以内にメディアセンターの **Erase** ボタンを押してください。 時間内に **Erase** ボタンを押さない場合は初期設定値に戻りません。 一度、初期設定に戻した後、アダプト IQ の設定をやり直すには、再度ディスク 2 を入れてください。 アダプト IQ による音場補正が行われていません。 音場補正を行うにはディスク 2 をいれてください。
次ページ		残りのメニューを表示します。
前ページ		始めのメニューにもどります。
高音部補正：	−14〜+14	部屋の環境に合わせて音声の高域量を増減できます。 高音の量が多すぎる場合は、− 1 〜− 14 の範囲で高域の量を減らします。 高音の量が少なすぎる場合は、＋ 1 〜＋ 14 の範囲で高域の量を増やします。
低音部補正：	−14〜+14	低音の量が多すぎる場合は、− 1 〜− 14 の範囲で低域の量を減らします。 低音の量が少なすぎる場合は、＋ 1 〜＋ 14 の範囲で低域の量を増やします。

※アダプトIQ使用時では、高音部補正と低音部補正の調整幅が-9〜+6までとなります。これはアダプトIQにより、最適な音場補正が行われているので、この調整幅で十分最適な音場補正が可能だからです。

システム設定

1. リモコンの**Settings** ◯ ボタンを押すと、現在選択しているソースにおいて利用可能な設定項目がテレビ画面に表示されます。

2. リモコンの**Tune** **down**ボタンを押して、システム設定を選択してください。このとき項目が強調されて表示されます。

3. リモコンの**Enter** ◯ ボタンを押すと、システム設定項目が表示されます。

システム設定オプション

項目：	設定（ソース）	内容
表示部の明るさ：	1～7	メディアセンターの表示部の明るさを調節します。
表示言語：	日本語/English	オンスクリーンディスプレイの表示に用いる言語を選びます。 設定を変更したら **Settings** ボタンを 2 回押すと、変更後の言語でオンスクリーンディスプレイに表示されます。
DVD設定		DVD の動作設定をするには **Enter** ボタンを押します。
光入力ソース：	TV/AUX/VCR/TAPE	指定したソースに光デジタル入力を割り当てます。
光デジタル入力：	−6/−3/0/+3/+6	他のソースとのバランスがとれるように光デジタル入力のレベルを調節します。
音声出力方式：	オリジナル/PCM	音声出力にオリジナルビットストリームを用いるか、PCM に変換するかを指定します。
テレビ放送方式：	NTSC/PAL	テレビ放送方式を選びます。日本では常に［NTSC］を選択しておいてください。
次ページ		残りのメニューを表示します。
前ページ		始めのメニューにもどります。
ブラックレベル：	通常 拡張	米国標準 日本標準
映像出力：	通常 コンポーネント	コンポジットおよび S 端子使用時に選択します。 付属のコンポーネントビデオアダプターケーブルを用いて、コンポーネント出力対応のテレビやプロジェクターを使用時に選択します。

システム設定内のDVD設定オプション

項目：	システム設定：DVD設定	内容
音声トラックの自動選択：	入 切	ディスクに収録されていれば自動的に5.1チャンネル音声トラックを再生します。
字幕の自動表示：	入 切	［Mute］（消音）状態で自動的に字幕が表示されるようにします。
DVDの自動再生：	入 切	DVDが挿入されると自動的に再生を始めます。
アスペクト比：	4：3/16：9	標準（4:3）またはワイド（16:9）テレビ用にアスペクト比（画面のサイズ）を指定します。
画面形式：	パンスキャン レターボックス ――	パンスキャンは標準テレビに合う大きさ、 レターボックスはより幅広い画面になります。 アスペクト比が16：9のとき。
視聴制限設定：		特定のDVDに対して視聴制限を設定するにはここでリモコンの**Enter**ボタンを押します。

視聴制限サブメニュー

視聴年齢制限に対応したディスクの再生を制限する、視聴制限についての設定項目です。

暗証番号入力前

項目：	視聴制限設定：暗証番号設定	内容
暗証番号入力：	＿＿＿＿	暗証番号を4桁の数字で入力してください。

※暗証番号を最初に設定する時、項目に暗証番号設定と表示されますので、暗証番号にする4桁の数字を入力してください。その後、確認のために暗証番号を入力するように要求されますので、暗証番号を再度入力すると設定が終了します。

暗証番号入力後

項目：	DVD設定: 視聴制限設定	内容
DVDの視聴制限：	入 切	［入］にするとDVDの再生･視聴に暗証番号の入力が必要になります。 視聴制限しません。 **DVD の視聴制限について** 視聴制限のレベルが設定されていない DVD ソフトを演奏する場合は、必ず［切］に設定しておいてください。“ 視聴制限（パレンタルコントロール）について ”（17 ページ）参照。
暗証番号変更：	＿＿＿＿	新しい暗証番号の設定あるいは現在の暗証番号の変更にはここでEnterボタンを押します。暗証番号を変更するにはここで4桁の数字を入力してください。
視聴許可レベル：	1～8以下	視聴許可レベルを越えるDVDの視聴を制限します。［8以下］にすると制限はかかりません（17ページ参照）。

※設定した暗証番号を忘れてしまったときは、[2673] と入力すると、以前の暗証番号が解除されます。その後、新たに暗証番号を設定してください。

LS-35のお手入れについて

メディアセンターとスピーカーのお手入れ

・汚れやほこりは柔らかい布でから拭きしてください。

・汚れがひどい時は、中性洗剤を薄めた水に柔らかい布を浸し、堅く絞って拭きとってから、柔らかい布でから拭きしてください。

・アルコール、シンナー、ベンジンなどの薬品はキャビネットの表面をいためますので、ご使用にならないでください。また、スプレー式の殺虫剤や消臭剤、芳香剤などもかからないようにご注意ください。

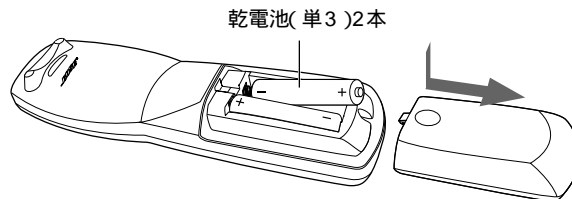
・どの開口部からも液体が入らない様にご注意ください。

・スピーカーグリル部分を掃除するときは、掃除機を使って傷つけないように弱い吸引力で注意深く吸い取ってください。

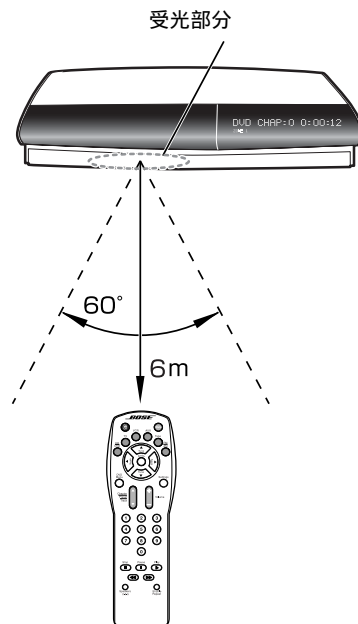
リモコンの電池の入れかた

1. リモコンを裏返しにしてバッテリーカバーを下に押し込みながら引き出すように電池ボックスを開けます。
2. ボックス内の表示に合わせて乾電池（単三型2本）を入れてください。
3. スライドさせるようにしてバッテリーカバーを閉めてください。

⚠ **注意：付属の乾電池は動作チェック用です。早めに新しい乾電池と交換してください。**

図7
リモコンの電池の入れ方

⚠ 電池についての注意

- **乾電池の⊕と⊖の向きを電池ケースに表示されているとおりに正しく入れてください。**
- **新しい乾電池と古い乾電池、または、種類の違う乾電池を混ぜて使用しないでください。**
- **乾電池は絶対に充電しないでください。**
- **長い間（1ヶ月以上）リモコンを使用しないときは、乾電池をリモコンから取り出しておいてください。**
- **液漏れを起こしたときは、ケース内についた液をよくふき取ってから新しい乾電池を入れてください。**

図8
リモコンの動作範囲

⚠ 使用上の注意

- **メディアセンターの受光部に直射日光や照明の強い光が当たっていると、リモコンの操作ができないことがあります。**
- **本機のリモコンを操作すると、赤外線によりコントロールする他の機器を誤動作させることがありますので、ご注意ください。**
- **リモコンとメディアセンターの受光部の間に障害物があったり、受光部との角度が悪いとリモコン操作ができないことがあります。**

電池の交換時期について

リモコンの電池が消耗すると、リモコンの動作範囲が狭まってきて効きが悪くなってきます。このような症状が出てきたらリモコンの乾電池を2本とも新しい乾電池に交換してください。

ディスクの取り扱いについて

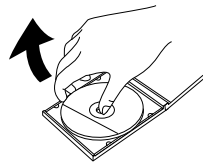
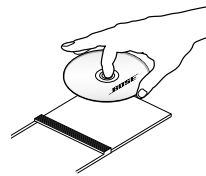
結露現象について

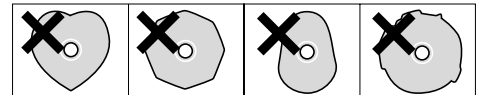
冬、暖房のきいた部屋の窓ガラスに水滴がつき、くもってしまう現象、これが結露現象です。メディアセンターも冷えきった状態のまま暖かい部屋に持ち込んだり、急に室温を上げたりすると、光学系のレンズ（ピックアップのレンズ部分）に露が生じ（結露）、レーザーによるディスクからの信号読み取りができず、メディアセンターが動作しないことがあります。
このような現象が生じた場合は、周囲の状況にもよりますが、電源を入れ1時間程放置すると結露が取り除かれメディアセンターは正常に動作するようになります。

ディスクの取り扱いについて

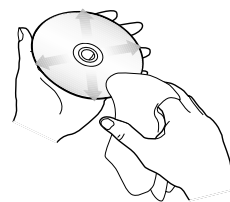
ディスクの表面にキズをつけないよう大切に扱ってください。

ディスクのセットは、必ずレーベル面を上にして、セットしてください。

図9
ディスクの取り扱い

ディスクをケースから取り出すときは、必ずケースの中心を一度押して、ディスクの外周部分を手ではさむように持って取り出してください。

ディスクを持つ場合には、演奏面（ラベルの印刷していない面）に触れないように、両端をはさんで持つか、中央の穴と端をはさんで持ってください。

・レーベル面に紙などを貼ったり、ボールペンなどで文字を書かないでください。
・再生が終わったディスクは、必ずケースに入れて保管してください。そのままディスクを放置するとそりやキズの原因となります。
・ディスクにセロハンテープやレンタルディスクのシールなどをはがしたあとがあるもの、またシールなどから糊がはみ出ているものは使用しないでください。そのままメディアセンターにかけると、ディスクが取り出せなくなったり、故障の原因となることがあります。
・ディスクは、2枚以上重ねて置いたり、ディスク以外のものをトレーの上に置かないでください。故障の原因になります。
・市販のディスクスタビライザーは、絶対に使用しないでください。再生できなくなったり、故障の原因となることがあります。
・ハート型や八角形など特殊形状のディスクは、機器の故障の原因となりますので使用しないでください。

ディスクの表面はいつもきれいに

ディスクの表面を拭くときは必ずディスク専用のクリーナーを使用して右の図のように拭いてください。

※ディスクは、プラスチック製です。従来のアナログディスク用のクリーナーや帯電防止剤、ベンジン、シンナーなどの揮発性の薬品を使用すると、ディスクの表面に悪い影響を与えますので絶対に使用しないでください。

ディスク保管上の注意

ディスクはケースに入れて正しく保管しましょう。ディスクを大切にするため次のような場所に置くことはさけてください。

●直射日光の当たる場所。
●暖房器具の近くや空調の吹き出し口などの高温になる場所。または高温になる物の上。
●車の中などの高温になる場所。
●投光照明機などの発熱物の近くの場所。
●極端に寒い場所。
●湿気や水分のある場所、プール、浴室などの湿気の多い場所。
●屋外や直接水のかかるところ。

注意：ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは、使用しないでください。ディスクは機器内で高速回転しますので、飛び散って、けがや故障の原因となることがあります。

故障かな？と思ったら

問　　題	対　　応
システムが全く機能しない	• メディアセンター・ベースモジュール接続ケーブルとメディアセンターが確実に接続されていて、ベースモジュールのACケーブルが確実に差し込まれており、ACプラグが確実にコンセントに差し込まれていることを確認してください。 • 音源の選択が行われていることを確認してください。
音声が全く出ない	• ベースモジュールの電源がONになっていることを確認してください。 • モジュール接続ケーブルがメディアセンターの SPEAKER ZONES の 1 出力端子に接続されており、ケーブルの反対側がベースモジュールにしっかり接続されていることを確認してください。 • ACプラグをコンセントから抜いて、約1分以上放置して、もう一度電源を入れ直してください。 • 外部の機器との接続をチェックしてください。希望する音源に対して適切な入力端子を選択しているか確認してください。 • スピーカーケーブルの接続をチェックしてください。 • ディスクがメディアセンターに正しくセットされていることを確認してください。 • ボリュームを上げてみてください。 • ミュートがかかっている場合は、リモコンの**Mute**ボタンを押しミュートを解除してください。 • FM/AMアンテナが正しく接続されていることを確認してください。
音が歪んでいる	• スピーカーケーブルに損傷したところがないか確認してください。 • 外部の機器からの出力が大きすぎないか確認してください。
センタースピーカーから音が出ない	• センタースピーカーが間違いなく接続されているか確認してください。 • スピーカーモードが 3 または 5 が選ばれていることを確認してください。 •“ システム設定 ”の“ 音声設定 ”項目内“ センターチャンネル ”の項目を選び、音量を調整してください（本取扱説明書31ページ参照）。
センタースピーカーからの音が大きすぎる	•“ システム設定 ”の“ 音声設定 ”項目内“ センターチャンネル ”の項目を選び、音量を調整してください（本取扱説明書31ページ参照）。
サラウンドスピーカーから音が出ない	• すべてのスピーカーの結線に間違いがないか確認してください。 • 5スピーカーモードを選択されていることを確認してください。 •“ システム設定 ”の“ 音声設定 ”項目内“ サラウンド ”の項目を選び、音量を調整してください（本取扱説明書31ページ参照）。
サラウンドスピーカーからの音が大きすぎる	•“ システム設定 ”の“ 音声設定 ”項目内“ サラウンド ”の項目を選び、音量を調整してください（本取扱説明書31ページ参照）。
音が歪んでいる	• スピーカーケーブルに損傷したところがないか確認してください。 • 外部の機器からの出力が大きすぎないか確認してください。
リモコンが正しく働かない、あるいはまったく働かない	• 電池装着および、その極性（⊕と⊖）をチェックしてください。 • 新しい電池に交換してみてください。 • リモコンをメディアセンターの受光部分に近づけて操作してください。
ラジオが動作しない	• アンテナが正しく接続されていることを確認してください。 • アンテナの位置を調節して、受信状態を改善してください。 • 信号が弱い地域の可能性があります。 • AMアンテナを本機からもっと離してみてください。 • FMの場合、テレビのアンテナ信号を分配器を使って分配してみてください。
FM サウンドが歪んでいる	• アンテナの位置や向きを調節してください。

問　　題	対　　　　応
ディスクが演奏できない	• 表示部のプレイ ▶ 記号が点灯しているかチェックしてください。 • 正しくディスクがメディアセンターにセットされているかを確認してください。 • **CD/DVD**ボタンを押して数秒待って ▶ **PLAY**ボタンを押してください。 • ディスクを入れ直してください。 • ディスクにキズや汚れなどがついている可能性があります。別のディスクを使ってみてください。 • レーザーピックアップあるいはディスクに塵やゴミが付いている可能性があります。市販のクリーニングキットを使ってみてください。 • 本機が対応していないディスク（データーＣＤなど）を再生しようとしています。 **※「コピーガードや長時間記録など特殊な処理を施されたCDをかけた場合、正しく再生されないことがありますのでご注意ください。」** • ＤＶＤビデオディスクの場合、地域番号（リージョンコード）が正しいか確認してください。
外部機器からの音声が出ない	• 入力切換で正しく外部の機器を選んでいるかチェックしてください。 • 接続をチェックしてください。 • 外部機器の取扱説明書を参照してください。
TV、TAPE、VCR、AUXに接続した外部機器からの音声の低音が大きすぎる	•“ フイルムＥＱ ”がかかっていないかを確認し、かかっているようであれば解除してください（本取扱説明書３１ページ参照）。
画像がでない	• テレビの電源が入っているか確認してください。 • ＬＳ-３５の電源が入っているか確認してください。 • メディアセンターのコンポジット映像出力あるいはSビデオ映像出力がテレビに確実に接続されているか確認してください。 • テレビ側の入力切換が適正ポジションであるか確認してください。
再生画像がでない、乱れる（DVD 画像）	• ディスクが、メディアセンターに正しくセットされていることを確認してください。 • ＤＶＤ以外のディスクが入っていないか確認してください。 • ディスクにキズや汚れなどがついている可能性がある。別のディスクを使ってみてください。 • 本機が対応していないディスクを再生しようとしてます。 **※本機が再生できるソフトは、リージョンコード（発売地域割当コード）が2のソフトです。** • メディアセンターのビデオ出力ケーブルが直接テレビにつながれていることをチェックしてください。 **※途中に別の機器をつなぐと映像が正しくでません。**
再生画像がでない、乱れる（ビデオ画像）	• ビデオ側の電源が入っているか確認してください。 • ビデオテープが正しく挿入されているか確認してください。 • ビデオの映像出力ケーブル（黄色）が、本機の映像入力端子に正しく接続されているか確認してください。 • ビデオケーブルが不良の場合は、他のケーブルと交換してください。
画面が乱れて、白黒になっている	•“ システム設定 ”の“ テレビ放送方式 ”で［ＮＴＳＣ］が選択されていることを確認してください。 •“ システム設定 ”の“ 映像出力 ”の設定（［通常］または［コンポーネント］）が適切であるか確認してください（コンポジットまたは、Sビデオでは［通常］、コンポーネントビデオアダプターケーブル使用時は［コンポーネント］を選択して下さい）。
DVD ディスクを演奏しようとすると、暗証番号の入力を要求される	• 本機の視聴許可レベルがDVDソフトのレベルより低いレベルに設定されている。“ 視聴制限サブメニュー ”（本取扱説明書３４ページ参照）で本機のレベルの設定を変更してください。 • 演奏しようとするDVDソフトに視聴制限の設定がされていないのに、本機のＤＶＤ視聴制限が［入］に設定されています。視聴制限サブメニュー（本取扱説明書３４ページ参照）ＤＶＤの視聴制限を［切］に変更してください。

Reference

故障の場合のお問い合わせ先

ボーズ株式会社、インフォメーションセンター　☎ **03-5489-0955**

保証

保証の内容および条件は付属の保証書をご覧ください。

仕様

●サテライトスピーカー（防磁型）

ユニット構成	5.0cmドライバー×2
外形寸法	57（W）×113（H）×83（D）mm
質量	350g（1本）

●ベースモジュール（非防磁型）

ユニット構成	13cmウーファー×2
外形寸法	633（W）×410（H）×205（D）mm
質量	16kg
<内蔵アンプ部>	
フロント定格出力	20W×3
サラウンド定格出力	20W×2
ベース定格出力	120W
電源電圧	AC100V（50/60Hz）

●メディアセンター

外形寸法	400（W）×95（H）×290（D）mm
質量	3.7kg
電源電圧	AC100V（50/60Hz）　※ACアダプター使用
<プリアンプ部>	
音声入力	アナログ/デジタル（同軸/光）×4
音声出力	アナログ/デジタル（同軸/光）×1
映像入力	コンポジット×1、S端子×1
映像出力	コンポジット×1、S端子×1
<DVD/CDプレーヤー部>	
再生周波数帯域	20Hz〜20kHz（±0.5dB）
<チューナー部>	
FM受信周波数/チャンネルステップ	76.0〜90.0MHz/100kHz
AM受信周波数/チャンネルステップ	531〜1629kHz/9kHz

●付属品

赤外線リモコン、FMアンテナ、AMアンテナ、ケーブル類一式、ACアダプター、調整用ヘッドセット型マイク、セットアップディスク1・ディスク2

ボーズ株式会社

http://www.bose.co.jp/

〒150-0044　東京都渋谷区円山町28-3　渋谷ＹＴビル　ＴＥＬ03-5489-0955

●仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがあります。
●弊社取扱以外の製品については、保証の責任を負いかねますのでご了承願います。

OM-1258
03•3-0.3K-A•1（I-M）